

授業科目名	国語科教育法 (2100265)		
時間割名	国語科教育法 (41110)		
時間割担当	正木友則		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	木・1		

授業の目標・概要

国語科教育法、言語活動の充実、各種調査の結果などを踏まえ、「国語」を教えるとはどういう営みかを再確認することから始め、これからの時代に求められている能力、言語活動の充実、各種調査の結果などと、国語科の指導との関連について考える。また、実際の授業に向けて、教材研究の在り方、学習評価の在り方などを取り上げ、それらを踏まえて指導計画等の作成と模擬授業を行う。授業は、ペアやグループなどによる活動を重視する。

学習の到達目標

国語科教育に関わる話題を幅広く取り上げ、中学校、高等学校において国語科の授業を担当する際に資する実践的な課題意識をもち、指導計画等の作成とそれに基づく実践的な指導力を身に付ける。

授業方法・形式

それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。ペアやグループ学習、取り上げるテーマに関するディスカッション等を行う。

授業計画

- 第1回 「国語」を教えるとはどういう営みかの再確認
言語の教育としての国語科の果たすべき役割や、目指すべき方向について再確認する。
- 第2回 生きる力、これからの時代に求められる能力等と国語科の指導
学習指導要領の理念である生きる力や、求められるスキル等と国語科の指導との関係を考える。
- 第3回 言語活動の充実と国語科の指導
学習指導要領で重視している各教科等における言語活動の充実と国語科の指導と関係を考える。
- 第4回 各種調査の結果と国語科の指導
PISAや全国学力・学習状況調査など国内外の調査の結果と国語科の指導との関係を考える。
- 第5回 国語科教育の先達に学ぶ 近代以降の国語科教育の先達の業績についてその概要を知る。
- 第6回 教材研究は何のために行うのか
教材研究の現状と課題について学び、指導の工夫改善に必要な教材研究の在り方について考える。
- 第7回 学習評価は何のために行うのか
学習評価の現状と課題について学び、指導に生きる学習評価を充実していく方途について考える。
- 第8回 年間、各単元の指導と評価の計画の作成(1) 指導と評価の計画の作成の方法について学ぶ。
- 第9回 年間、各単元の指導と評価の計画の作成(2) 指導と評価の計画を実際に作成し、課題等について考える。
- 第10回 学習指導案の作成と模擬授業(1)(主に「話すこと・聞くこと」領域)
学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。

成績評価の基準

【授業計画続き】

- 第11回 学習指導案の作成と模擬授業(2)(主に「書くこと」領域)
学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。
- 第12回 学習指導案の作成と模擬授業(3)(主に「読むこと」領域)
学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。
- 第13回 学習指導案の作成と模擬授業(4)(主に、伝統的な言語文化と国語の特質に関する内容)
学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。
- 第14回 タイムリーな課題
各回で取り上げることが出来なかった話題で、タイムリーなものや、喫緊の課題などを学ぶ。
- 第15回 授業の総括として、これまで身に付けたことについて振り返る。

【成績評価の基準】

授業中に行う模擬授業や小レポート評価し、授業に対する関心・意欲・態度や理解度を評価する(30%)
課題レポートにおいて、課題探究の深さ、緻密さ、斬新さなどを評価する(30%)。
学期末においては総合的な理解を確認する(40%)。

準備学習・復習及び授

前時に配布された資料を読み、要点をまとめた上で、自分の考えを表現したレポートを準備すること。

履修上のアドバイス及

- ・受講上の基本的なマナーを守ること
- ・対話的に授業を進めるため、授業への積極的な参加を求める。
- ・授業時間内での理解を深めるために、予習と復習を欠かさないこと。

教材・教科書

吉川芳則『授業づくり、学級づくりの勘所』（2015年、明治図書）

参考書

特になし 必要に応じて授業で紹介する